

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4093300020
法人名	医療法人 光洋会
事業所名	グループホーム 城山庵
所在地	福岡県宗像市石丸1丁目3番27号
自己評価作成日	平成23年10月1日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成23年10月26日	評価結果確定日	平成23年12月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

閉鎖的にならないように力を入れており、併設している小規模多機能型居宅介護施設の利用者との日常的な交流をはじめ、敷地内は住民の方が気軽に通ったり遊んだり出来るように開放している。また、近隣の大学生や地域の方の体操指導などの定期的ボランティアに加え、保育園や中学校との交流が少しずつできてきている。地域からも認知症についての講演依頼があれば寸劇も入れ地域に馴染む認知症啓蒙活動をしている。職員教育は法人内で協力し他部署の勉強会の参加も出来るようにし、研修の機会は充実している。健康については母体である赤間病院が隣接している上に、医療連携加算で赤間病院訪問看護ステーションと契約関係にあるため、健康管理や体調不良の際には迅速な対応をとり、重篤な状態になる前の対応に気を付けている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小規模多機能型事業所が併設され、近隣には、母体となる医療機関やデイケアセンター、訪問看護ステーションが位置している。法人内の連携は、日々の健康管理や緊急時の対応に加え、職員育成や働きやすい職場環境作りにも活かされている。日常の暮らしの中では、入居者の方々の「自分らしく」を追求し、生活暦やライフスタイル等のこれまでの暮らしについての情報収集と、現在の思いや願い、心身状況や生活リズム等を鑑み、本人本位の検討と柔軟な対応を行っている。特に個別のアクティビティでは、ウィンドウショッピングや趣味行事への参加、家族との昼食作り、宝くじの購入、スポーツ観戦等、充足感や心が躍動する場面を支援しながら、生活や心身の活性化へとつなげている。地域や行政との交流や連携も年々深まってきており、地域の福祉拠点としての活動が始まっている。

## ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果				
自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況
<b>理念に基づく運営</b>				
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に開設当初職員全員で作りあげた理念を掲示し常時職員がみれる状況である。ケースカンファや申し送りで、ケアの方法を見当する時は理念に基づいている。	理念に基づき、基本運営方針を具体的に示している。生活暦やライフスタイルの把握に努め、日常の暮らしの中でも「その人らしさ」を探しながら、個別のアクティビティや介護計画への反映へと結び付けている。
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今までの活動にプラスして保育園の運動会や盆踊り等声をかけて頂き見学している。 また、休みの日に近所の子どもさんが庭に遊びに来たりしている。	併設する小規模多機能型事業所と合同開催される文化祭では、準備段階から区長や家族、近隣中学校等の協力を得ることが出来た。回覧板にて案内され、盛況に開催されており、地域住民、家族による調理も行われている。保育園との相互交流、ワクワワーク(職場体験学習)、住所地の敬老会・いきいきサロンへ参加する等、地域との交流を積み重ねている。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コミュニティセンターでの出張講演では認知症の予防や対応について講演や劇をして、啓発活動を行った。 また、新任民生委員の研修の場として見学等をしていただいた。	
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて実践報告や事業所の取り組み、利用状況など報告。実例を用いて評価表も委員の方々にみていただいた。地域行事の内容や詳細を地区代表の委員に情報を頂いたり、駐車場の確保などご協力いただいている。	小規模多機能型事業所との合同開催となり、家族、区長、民生委員(4名)、知見者、近隣住民、地域包括支援センター職員等、充実したメンバー構成により定期開催されている。会議の内容は、必要時には「城山庵便り」にも掲載され、情報の共有を図っている。
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議の委員を地域包括支援センターの方にいただいている。また、地域密着型サービス事業所の連絡会にも介護保険課の方が毎回出席され意見交換を行っており、協力を仰ぎやすい関係にある。	行政担当者や地域の事業所が集まり、2ヶ月毎に開催されている「地域密着ネットワークむなかた」では、勉強会を開催したり、毎年、研究発表も行われている。困難事例への対応や、消防団への協力依頼をする際には橋渡し役となってもらう等、協力関係が構築されている。また、災害対策については、生活安全課との連携も図っている。
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎年、職員全体で勉強会を行い理解を深めている。玄関は夜間以外は施錠をしていない。また身体拘束をしないことを玄関に掲示している。帰宅願望の強い場合には職員と一緒に外を歩いたり、夜間眠れない方には、話しをしたりTVを見たり個々に対応し心身の拘束をしないようにしている。	身体拘束やリスクマネジメント等の勉強会を実施しており、言葉による抑制についても、意識を持った支援に努めている。また、家族ともリスクや弊害について共有認識を図りながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日常の暮らしの中で、自立支援やプライバシーの確保、リスクの軽減等を鑑み、個別性ある、柔軟な対応が行われている。

福岡県 グループホーム 城山庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待について職員全体で勉強会を行い、身体的虐待だけでなく心理的虐待が無いように努めている。	/	
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	人権や表記の制度について今年は3名の社会福祉士がおり、勉強会を開催している。現在、成年後見制度を利用されている方はいらっしゃるが、必要とされる方には活用できるように支援していく。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	サービス開始時、改定時には内容を説明した上で契約書等を一旦持ち帰っていただき不明な点を尋ねる様にしている。疑問に対応し納得していただくようにしている。	/	
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、家族会の開催、アンケート調査を行い意見や要望を聞く機会を設けている。それらの内容については定例会や運営推進会議等にて検討している。必要に応じ法人での検討に結びつけるケースもある。		
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の朝礼、定例会はほぼ全員の職員と管理者が参加し、話し合いの場としている。新入職員の高齢者疑似体験により、「杖を置くところがなくて困った」という意見を参考に要所要所に杖置きを設置する等、職員の気づきを活かしている。	法人全体として、処遇改善委員会が設置され、職員アンケートも実施されている。これらの取り組みは、夏期休暇制度の導入や資格取得手当等に反映されている。月例定例会や随時の職員ミーティングを通じて、活発な意見交換が行われている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人全体で職場アンケートをとり、夏期休暇の習得や資格手当(パートの時給)等、休暇や給与についても改善に取り組んでいる。また、個人の休日の希望を尊重したり向上心を持って働けるよう勉強会を紹介している。	/	
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員は差別なく(性別、年齢)採用されている。ホームの中で「家族を作りたい」という熱意があり年齢、性別、経験は問わず「高齢者が好き」な人を採用している。行事などで職員の特技や経験を活かした役割を作ることもある。		

福岡県 グループホーム 城山庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権について職員全員で勉強会を行い理解を深め、日々の業務に反映できるよう努めている。勉強会以外にも、定例会や申し送り時などに常に「自分らしく」個性を大切にしよう意識付けを行なっている。	職員が持ち回りで講師を務める勉強会では、人権尊重や自己選択、自立支援等をテーマとして取り上げ、グループワークや事例検討が行われている。また、コミュニティセンターでは、地域住民へ向けて、認知症についての啓発活動を行っている。	
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は毎日来所して管理者、職員一人一人のケアの実際を把握しており、研修の機会や資格取得に対するサポートをしている。日常的に学ぶことを推進し、パートの職員にもチームの一員として勉強会等の参加の機会がある。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内の事務所が集まる地域密着ネットワークや、グループホーム協議会に所属し、会議や勉強会に参加することで知識の向上、他事業所との交流を持っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時のアセスメント、入所後のアセスメントを管理者、計画作成担当者が行い不安や要望を聞いている。入居後は担当職員を決めて積極的に関わることによって日常生活における相談をしやすいようにしている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始前に家族のニーズや思いの把握に努め関係作りに努めている。入居前の体験利用を家族と共に行っていたり、話を聞く機会を作っている。入居前のCMや病院の相談員とも連携し入居時の不安解消に努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時本人や家族の状況把握を行い、体験・見学していただき、他のサービスとも比べながら必要な支援に結びつくよう努めている。空床がない場合は他のグループホームの紹介も行っている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はできるだけ利用者と一緒に作業を行なうようにし、利用者が生活の主体者となるように支援に努めている。利用者同士で物事を教えあったり、励ましている場面もあり過度な介入をしないよう気をつけている。		

福岡県 グループホーム 城山庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の施設便りや担当からの手紙、診療明細書の送付を行って施設での状況報告を行なっている。利用者は、電話や手紙、外出や面会なども自由にできる。家族へ面会や外出(散髪など)のお願いの連絡をすることもある。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人のなじみのある方に来て頂けるよういつでも面会を受け入れている。住所地の老人会への参加をしている方もいらっしゃる。本人の馴染みの関係を把握し、外出のきっかけにしている。知人が来所され一緒に食事をされることもある。	センター方式も活用しながら、馴染みの場所や関係性について把握に努めている。旧知の方との食事や馴染みの美容院の利用、住所地の敬老会やいきいきサロンへの参加等を、家族とともに支援している。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや家事(食器拭きや洗濯物たたみなど)を一緒に行い、親近感や連帯感をうむことでお互いに支えあえるように支援している。その中で利用者同士が励ましあっていたり物事を教えあう関係もできている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院の場合には面会に行ったり病院の相談員に連絡をとるなどし、退院時支援が出来るようにしている。今年度10月の文化祭に退居された方の家族を招待する予定である。		
<b>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で思いや意向の把握に努めている。また、家族にも昔の様子や趣味などの情報を尋ねている。本人の希望をニーズとして介護計画に取り入れ目標に近づけるよう支援している。	家族の協力も得ながら、各担当職員により、センター方式を活用したアセスメントが実施されている。また、日常の中でも、入居者の方々の「自分らしさ」について情報収集や検討を行い、個別のアクティビティや介護計画作成へとつなげている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前のCMからも情報収集を行い、それまでの生活歴の把握に努めている。また、家族の面会時に話を伺ったり、生活の様々な場面で本人からの聞き取りをしている。行事の準備も生活背景の把握に役立っている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中で利用者一人一人の様子観察を行い、過ごし方や心身状態、有する力の把握に努め、変化は各種帳票を活用し全職員が共有できるようにしている。		

福岡県 グループホーム 城山庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、本人、ケアマネ、担当職員が定期的に担当者会議にて話し合い、介護計画を作成し担当者が毎月評価を提出し、介護計画の見直しにつなげている。評価は希望される家族には開示している。	日課や役割、地域行事への参加等について、具体的に記載されており、個性ある介護計画となっている。各担当者・計画作成担当者により、毎月、モニタリング・評価が実施されている。詳細な評価表には、訪問看護師による評価も記載されており、見直しに活かしている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタル表、個別記録に毎日記録したり、毎日の申し送りにて情報の共有に努めている。ご本人の希望等を交え介護計画を作成し、且つ担当者が行う毎月の評価を次の計画作成に活かしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出外泊等家族のニーズに合わせて支援している。10月には利用者の地元の老人会へ利用者とともに職員が参加し歌や音楽を楽しむ予定である。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	学生ボランティアによる音楽・メイク・お話等定期的実施。文化センターやコミセンの利用も行い外出の機会としている。福祉サービスの活用も必要に応じ勧めている。避難訓練には消防署や消防団も協力的である。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体である赤間病院とは医療連携も含め、関係性は出来ている。しかし、かかりつけ医の選択は家族の希望とし強制することはない。受診の際は日頃の状況を伝える支援は直接的・間接的に行っている。	入居時に、希望するかかりつけ医について確認している。母体である医療機関やデイケアセンターが近隣に位置しており、かかりつけ医として希望されることも多い。訪問看護による週2回の健康管理も行われ、個々に応じた看護計画も作成されており、医療連携体制が機能している。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は週2回の定期訪問のほか、24時間オンコールで緊急時にはいつでも対応可能である。日々の様子は看護記録や評価表により情報提供している。急性増悪時には医療の訪問看護を利用する事もある。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は支援方法について病院に情報提供のためサマリーの提出をしている。入院後はMSWを中心に情報交換を行いスムーズな退院につなげている。		

福岡県 グループホーム 城山庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合に向け契約時に家族の意向を聞いている。しかしながら、家族の気持ちが変化することも十分念頭においており、状態が変化した時点で、再度意向の確認を行なうと共に事業所のできることを説明し方針を検討するようにしている。	重度化した場合や終末期に向けた方針については、入居時に説明し、同意を得ている。センター方式や家族アンケートの中で、現状としての意向確認を行っている。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	表記のことにについて勉強会を行い、応急手当や搬送方法の実技演習を行なっている。緊急時の連絡系統の確認も併せて行った。事故発生時対応のマニュアルは事務所に設置しいつでも見られるようにしている。		
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を消防署や地域の消防団と共に行なっている。訓練については年2回昼と夜の想定にて行い、利用者にも参加している。今年は災害時訓練を行い、ライフラインが停止したときの調理訓練等を行い備蓄の検討も行なった。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。消防署や地域消防団、運営推進会議メンバーとの連携を図り、近隣住民への案内も行われている。また、ライフラインが遮断された場合を想定した炊き出し訓練を、設定を変えながら複数回実施し、課題について検討されている。2週間程度の備蓄品が用意されている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やミーティングの折に職員の意識向上を図るとともに利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応の徹底を計っている。書類関係については鍵のかかるキャビネットに保管している。	職員が持ち回りで講師を務める勉強会の中で、尊厳やプライバシー、自己選択の場面を支援していくこと等について取り上げ、職員間で共有認識を図り意識を高めている。排泄ケアの際には特に留意し、自尊心への配慮を心がけている。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような問いかけの工夫をして思いや希望を表出できるように働きかけている。飲み物や食べたいメニュー、レクへの参加等、生活上で可能な限り選択を用意し、本人が決める場面を作っている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせて起床、就寝、食事等の時間に対応している。眠たいときは無理強いせず休んで頂いたり、家事参加も希望を聞いている。一人での時間が過ごせるように見守りを行なっている。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	メイクセラピーのボランティアが来られることにより女性利用者の意識が高まっている。女性には、外出のときにお化粧を勧めたりしている。着替え等の更衣は基本的に本人の意思でもらっている。		

福岡県 グループホーム 城山庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に採ってきた畑の野菜を使って調理したり、雰囲気作りも大切にしている。調理、盛り付け、片付け等も可能なときは利用者と共に行い、職員も同じテーブルを囲んで楽しく食事をしている。	これまでに栄養バランスについて研究発表を行った経緯もあり、その日のメニューは入居者とともに考え、栄養バランスについても日々検証している。時にはホームの畑で育てられた野菜が食卓に上ることもあり、個別の希望やアクティビティとしての外食にも出かける等、「食」のプロセスを楽しむ機会は多い。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量、体重は記録し、食事量が少ない方は栄養補助食品やボカリスエットの摂取を促したり、水分量が少ない方には水分補給用ゼリーを召し上がっていただくなどしている。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人にあった口腔ケアをしている。又、舌のケアをしていただく様になっている。義歯の方は、就寝前には義歯用の洗浄剤を利用し保管して、翌朝装着していただいている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	状態に合わせリハビリパンツから失禁パンツまたは布パンツに変更している。夜間PWCの使用も状況に応じて使用するかどうか決めている。夜、失禁の多い方は時間誘導を行い、記録をとり、排泄の自立に向け、情報収集している。	自尊心への配慮を常に心がけながら、個別のニーズに、柔軟な検討と対応が行われている。必要時には、センター方式のD-3シートを活用し、個別のリズムやパターンの把握に努めている。訪問看護計画の中には、排便コントロールを目的とする具体策も示されている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	看護師による勉強会が行なわれた。バイタル表にて排便の回数を把握し、個々に応じて対応している。みそ汁に牛乳を入れたり、ヨーグルト、繊維質の多い食物の摂取等、薬を使わないケアを実施している。		
47	(20)	入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日午後から入浴できるようにしている。午前中入浴希望の方はシャワー浴で対応している。時折、バラの花や菖蒲湯、柚子湯など季節感を楽しむことができる。	毎日入浴準備を行い、希望や状況、生活習慣にあわせた対応を行っている。薔薇湯やフルーツ湯等、雰囲気作りにも配慮しながら、時には仲の良い方同士で入浴を楽しんでもらっている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後には、30分程の臥床後、本人の体調も考慮しながら昼夜逆転することのないよう、日中はできるだけ活動を促している。夜間ソファで休むことを希望される方には落ち着くまでソファで休んだ後居室に誘導している。		



福岡県 グループホーム 城山庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの病気や服薬内容についての勉強会を行った。処方薬のコピーを個別に整理し職員が内容を把握できるようにしている。服薬時は本人に手渡し服薬できているかの確認をしている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんだり、食器を拭いたり、花を生けたり、役割があり食後はコーヒーや牛乳など好みの飲み物を提供するようにしている。買い物に行くときはできるだけ利用者の方と一緒にいくようにしている。		
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望を聞きアクティビティや地域の行事や外食に出かけている。地域の老人会や法事、美容室への外出は家族の協力をお願いしている。	季候に応じて散歩に出かけたり、敷地内のお地藏様参りを日課とされている方もいる。日常の食材の買い物や個人としての買い物や介護計画の中に位置付け、支援を行っている。個別のアクティビティとして、ウィンドウショッピング・趣味の行事への参加・宝くじの購入・家族との食事作り等が行われている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の理解を得て小額のお金を持っている人もいる。自分で所持していたいと腰巻につけている方もいる。事務所でおこづかいを管理している人でも外出時や買い物等は自分で払っていただけるようお金を手渡すなどの工夫をしている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をしたいと希望された時は、事務所の電話をいつでも使用していただくよう支援している。電話をかけることで安心されている。手紙が届いたらお渡しして、投函の支援も行っている。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、テーブル、壁には季節の花や風物等を飾り、季節がひと目で分かるように配慮している。いつも清潔である様利用者や居室の掃除をしている。快適な生活していただけるよう音にも配慮している。	訪問時には、東日本大震災への思いや復興への願いを込めて入居者、職員により作成された、仙台風の吹流しが飾られていた。ゆとりある広さの共用空間には、食卓やソファ、ウッドデッキのベンチ等、それぞれの方にとってのくつろぎの場所が確保されている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロア内には独りになれる空間はないが、ウッドデッキにベンチを置き入居者が自由に過ごせるようにしている。居室で独りになりたい方、お話をしたい方など思い思いに過ごせるようフロアにはソファやイスを用意している。		

福岡県 グループホーム 城山庵

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良く生活していただくために、危険物以外は荷物の持込制限はしていない。本人の趣味の物や、塗り絵、お花を飾ったり、自分の食器や箸を持ち込まれる方や、窓から見える所に家族が花壇を作られた方もいらっしゃる。	鏡台等の馴染みの家具やテーブルセットが持ち込まれている居室もあり、安心できる環境づくりとプライバシー空間としての配慮が行われている。居室の清掃についても、出来る限り力を発揮してもらいながら、職員とともに行っている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には了解を得て表札を掲げたり、目印をつけている居室もある。時計やカレンダーも目につきやすい位置にかけている。バリアフリーの上に動線に手すりをつけてあり、移動がしやすい設計になっている。		